

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

企画研究プロジェクトⅠ(教員・学生参加型) 2025年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏 名
	福祉学科・4年	武田 明莉
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ福祉学部福祉学科・教授	後藤 広史
研究課題	外国にルーツを持つ子ども・世帯向け子ども食堂リーフレット作成について	
研究年度	2025年度	
プロジェクト 分担者	武田明莉、舘岡拓希、鈴木ひまり	

プロジェクトの内容及び成果の概要

1. 本プロジェクトの内容

本プロジェクトは、近年子ども食堂の数が増加傾向にあり、地域において身近な存在になりつつあること、また外国籍世帯の増加に伴い、多文化共生の重要性が一層高まっていることに着目したものである。子ども食堂が外国にルーツを持つ家庭にとっても、生活上の困難を軽減する一つの資源になりうると考え、研究を始めた。

本研究の開始にあたり、埼玉県社会福祉協議会、川口市社会福祉協議会において、外国にルーツを持つ人の子ども食堂の利用状況についてプレインタビュー調査を実施した。その結果、外国にルーツを持つ人々の子ども食堂の利用率が低い傾向にあることが明らかとなった。さらに、その要因の一つとして、子ども食堂に関する情報が十分に行き届いていないことや、子ども食堂の存在自体の認知不足が課題として挙げられた。

これらの課題を踏まえ、「外国にルーツを持つ子ども・世帯に子ども食堂について知ってもらい、気軽に利用してもらうこと」を目的とし、外国にルーツを持つ子ども・世帯に向けて子ども食堂の紹介を行うリーフレットを作成した。

調査対象は上述した社会福祉協議会と子ども食堂である。まず、埼玉県社会福祉協議会と川口市社会福祉協議会に対して、子ども食堂の現状や課題、外国にルーツを持つ子ども・世帯の利用状況等について改めてインタビュー調査を実施した。また、子ども食堂については、外国にルーツを持つ子ども・世帯が多い地域に所在する食堂、あるいは外国にルーツを持つ子ども・世帯に対応・配慮した食堂とし、インタビューおよびフィールドワークを行った。実際に東京都、神奈川県、埼玉県内の計8か所の子ども食堂を訪問し、参加費を払って参加者と食事をしたり、食堂の運営の手伝いに参加したりすることで、現場の雰囲気を体感した。また、子ども食堂の基本情報や外国にルーツを持つ人々の利用状況、宗教上の配慮等についてインタビューを行った。

2. 本プロジェクトの成果

本リーフレットは、子ども食堂とはなにか、利用するための流れ、子ども食堂の紹介、子ども食堂に関するサイトの4項目によって構成されている。子ども食堂についてわかりやすく紹介し、利用までの流れを可視化することで、利用のハードルを下げることを目的としている。実際に調査に訪れた多文化対応の子ども食堂の事例を取り上げており、全体を通して外国にルーツを持つ人々への配慮を意識して作成している。具体的には、やさしい日本語とふりがなを使用し、写真を多く掲載することで視覚的に理解しやすい構成を重視している。また、各地域の状況に応じて翻訳し活用できるようにすることも企図している。これらの工夫により、異なる言語や文化的背景を持つ外国にルーツを持つ人々にとって、手に取りやすく、読みやすいリーフレットとなっている。

外国にルーツを持つ人々は、言語によるコミュニケーションの困難さや、宗教上の理由による食事制限などから、子ども食堂の利用に対して心理的・実質的なハードルを抱えていると考えられる。こうした状況を踏まえ、外国にルーツを持つ子ども・世帯を対象を絞り作成した本リーフレットは、子ども食堂への理解を深め、実際の利用につなげるきっかけになるものであると考えている。